

サザンクロス



救急医療

病院医療の大きな役割は、救急医療と高度医療で命を助けることである。救急病院の多くは数名の当直医と看護師で患者に対応し、医師は翌日の勤務もあり、ゆとりはない。患者の視点から考えると、どのような症状でも患者が救急と思えるときにいつでも対応してもらえるのが理想であるが、人的にも財政的にも無理がある。問題解決の責任は医療者側だけでなく国民、市民側にもある。しかし健康な時に、病気になった時のことを考える人は少ない。保険医療は無条件にお金が出てくるシステムではなく、24時間対応するのは非効率的で費用がかかるということを理解してもらう必要がある。救急医療に完璧を期待するのは無理で、多くの病院では形ばかりの救急体制を取るしかない。おまけに救急患者は初対面であり何の病気を持っているのかもわからない。一刻を争う状態で必要な検査ができ専門家が揃う病院は稀で、多くは翌朝まで待つ専門医療を行うことになる。

先日テレビを見ていると、タイの実業家が「日本企業の長所は規律とハードワークと信頼性にある」と述べていた。日本の常識とい

病院長
山本 忠生



えるこのメンタリティはどこから来ているのかを分析したのが「名誉と順応・サムライ精神の歴史社会学」である。筆者は武家社会の変遷を通して、西洋の騎士道とは違う考え方、個人と組織など日本の常識の形成過程を分析した。明治維新前後から日露戦争の頃に国を立ち上げたリーダーたちが持っていた価値観と精神構造の歴史的背景を分析したのである。今後、日本が独自の価値観や精神文化を再構築するには、政治経済的だけでなく、文化的、心理的にも大きな負担となるだろう、と著者は述べている。

このように閉塞された状況にどう対応するかの一つのヒントが、先日入院したときに読んだ「日本で一番大切にしたい会社」で取り上げられていた。会社の使命は利益を求めただけでなく多

くの人を満足させることにあり、企業経営に必要なものはお客さんがほしいものを作り出す人財、自分で考えて行動する人財である、という著者の意見に私は賛成である。入院してみても紀南病院には人財が豊富なのを実感しうれしくなった。

職業体験にやってきた二人の知的障害者を正社員に採用し、五十年後の今では社員の約七割が知的障害者で占める日本理化学工業の話は感動的である。その子達が精一杯仕事をできるように、会社は個々の人にあわせて工程や機械・部品を変えた。テレビには当時採用した一人が定年退職後も工場働いている様子が写っていた。社会保険病院の中でも障害者を数多く雇用している星ヶ丘厚生年金病院の事務長さんが「障害者がいる職場は団結が進み、空気が優しくなる」といわれていたことを思い出した。

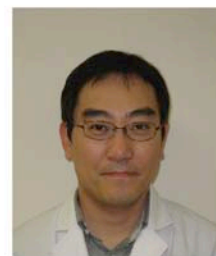
救急医療の抱える問題は社会構造の変化によるものでもあり、どれも一筋縄ではいかないし一病院や地域では解決できない問題もある。企業活動は儲かるか儲からないかとか、客にわかるか

なく、行動や考え方が正しいか、本当に客のためになるか、の視点で判断し全力を尽くす事が大切であると著者は述べている。日本独自の価値観を保ちながら足もとの問題解決に取り組んでいる経営者の姿をこの本で見聞して、日本はまだ大丈夫と明るい気持ちになった。

池上英子著・森本醇訳「名誉と順応・サムライ精神の歴史社会学」(東京・NTT出版・2000)

坂本光司「日本でいちばん大切にしたい会社」(東京・あさ出版・2008, 2010)

医療の現場から



紀南こころの医療センター
精神神経科 糸川秀彰

私は、平成7年4月から紀南こころの医療センターに赴任し、以後、同院での勤務を続けている。精神科疾患の多くは慢性疾患である以上、どうしても受け持ち患者数は多くなり、入院・外来を合わせると、現在600～700名程度の患者の担当をしている(多すぎるので、各々にかかれる時間が少なくなっているのが悩みの種である)。また最近(紀南病院でも顕著であろうが)地域住民の高齢化に基づき、患者の年齢層も高くなり、認知症患者の増加が著しくなったと感ぜられる。調べると田辺市など多くの市町村人口の4分の1以上が65歳以上に達しており、これら地域全体での人口が減少しているのに反し、当院を受診する高齢者の患者は今年も増えているようである。高齢者の場合、特に認知症においては特効薬がなく、また必要に応じて処方する他の向精神薬も、効き具合の個人差が大きく小刻みに調整する必要があったりで、なかなか処方合わせづらい。一方で、認知症の患者を安易に入院させると、環境の変化で不適応を起こしやすく、入院前より悪化してしまうことも少なくない。よって外来での治療を優先すべきことが多いが、抱える家族がない(独居老人)、もしくは高齢化していたり(いわゆる老老介護)で、やむを得ず入院治療を選択せざる

を得ないこともあり、前述の通りの、患者の不適応(せん妄なども含め)が、頭を悩ませる大きな要因となっている。さらに、どの年齢層の患者にも言えることだが、都会では精神科クリニックの開業が多いため、一旦安定すると同医に紹介できるが、紀南地方の精神科においては、以前にも増して、いわゆる後方病院の少ない寡占状態と化しており、安定しても当院での通院を続けている患者が多くなっている実情がある。また産科医や小児科医などの不足はマスコミでも大きな問題となり周知されているが、特に地方における精神科医(特に指定医)の不足といった事情はほとんど知られていない。新医師臨床研修制度などの影響にて、精神科医も都会に偏在した結果、当院のような地方の公立病院精神科へ赴任できる医師数も、全く余裕がなくなっているのである。かなり悲観的なことを記してしまったが、この現状を他の科の医師や、その他の関係者の方にも少しでも早くお伝えすべきと思い、精神科の内情をこの機会に述べさせて頂いた。うまく伝えられたか、あまり自信はないが、紀南こころの医療センターの現状をお知らせする機会を与えて頂いて、大変ありがたく思っている。乱筆失礼しました。

地震体験車 「ごりょうくん」



地震体験車「ごりょうくん」による災害訓練

大地震に対する防災意識を高めるため、実際に地震の揺れを体験しその恐ろしさを肌身で感じることを目的として、地震体験車「ごりょうくん」による体験訓練を行いました。

地震車に乗ってしばらくすると、ゴォーという地鳴りがしてきます。地鳴りがやまった頃から揺れ始め、だんだんと強く大きな揺れに。それにつられ表情もこわばってくる。不安に駆られていると、どういう訳か徐々に揺れが小さくなっていく。もうこれで治まるかと思いきや、再び強くて凄まじい揺れが。モニターの映像では家具が倒れ、備え付けの地震計は一瞬震度7に。こうなるともう椅子に座っていられなくなり、手すりにつかまったり、中には大きな悲鳴を上げる職員もいました。

これだけの大きな揺れから身を守るには、家具等の固定や家の耐震化が重要であることを痛感しました。

看護学校だより

平成21年度第33回生卒業式

平成22年3月5日、3年生22名の卒業生が、それぞれさらなる希望を抱き羽ばたきます。

卒業生は、紀南病院13名、和歌山県内6名、他府県2名、就職します。

前期入学試験

平成22年1月21、22日に前期入学試験が行われました。

試験の倍率は、2.2倍でした。なお、後期入学試験は3月16、17日に行います。

ケーススタディ発表

平成22年1月13日、第33回生のケーススタディの発表会が行われました。学生一人ひとりが実習中に学んだことをまとめ、看護観を深める機会になりました。紀南病院、こころの医療センターより看護師長、看護師の皆様にご講評を頂きました。



地域医療連携だより

「ディア・ドクター」

紀南病院には、いつも無理難題を聞いて頂きましてありがとうございます。こちらからの紹介状には必ずお返事があり、この点が他の病院との違いです。時には、紹介状を書いていないのに、突然、情報提供書が届いたこともありました。また、地域医療連携室がとて素晴らしい雰囲気です。一度行ってみるとわかりますが、そのドアを開けると、さんさんと太陽が降り注ぎ、色とりどりの花が咲き誇った花園に入り込んだようです。この地域医療連携室から、「サザンクロス」の原稿の依頼がありましたので、どうして断ることが出来ましようか。



古座川町 国保明神診療所 森田裕司

22年前に、私達は一家6人で大阪から古座川町にやって来てました。その頃すでに父は寝たきりでしたが、古座川町は大阪に比べて水も空気もきれいなので、療養にもってこいだと思い、母に「一緒に古座川町に来ないか。」と勧めました。すると、母は「そんな所に行っても、医者が居てへんやんか。」と言いましたので、成る程と納得しました。古座川町に来てからも、患者さんが「こんな事、お医者さんに言われへん。」とさんざんお話をして帰られることがしばしばあります。「私も医者なんやけど・・・。」と思うのですが、まだ反論する勇氣はありません。

さて、「ディア・ドクター」という映画をご存じですか。落語家の笑福亭鶴瓶が主演で、監督は、「ゆれる」でカンヌ映画祭で高い評価を得た西川美和さんです。去年の6月に封切られました。11月には田辺のジストシネマでも上映されましたので、ご覧になった方もおられると思います。僻地の医師役を演じる鶴瓶の演技がとて光っていました。その中で、鶴瓶が、急変した年老いた患者さんの所へ、研修医と一緒に往診に行く場面がありました。そこには、すでに患者さんの一族が大勢集まっていた。研修医はすぐに挿管の準備をするのですが、鶴瓶は患者一族の顔の表情を察知し、救命の処置はせず、おもむろに患者さんを抱きかかえて、「よう頑張ったな。」とねぎらいの言葉をかけます。彼らもその行動に納得したようでした。ところが、抱きかかえて背中をぼんぼんと叩いたものですから、喉につかえていた物が取れて生き返ってしまいました。それでも、それはそれで良かったので、今度は命を助けた名医ということで皆から崇められました。



先日、それと少し似たようなことがありました。99歳の女性が意識が無くなったと電話があり、すぐに自宅に往診。行ってみると、ベッドの上で生きているのか死んでいるのかわからない状態で寝ていたので、坐らせるように抱きかかえたら、意識がはっきりして嘔り出しました。どうも、薬とそれを飲むためのゼリーを一緒に飲んだ後の出来事で、抱きかかえることによって喉のつかえが取れて楽になったようです。

今、4カ所の診療所を担当し、定期的に40人程を月に2回ずつ往診に行っています。それ以外に急な往診もあります。先日、「朝早くてすみません。」という電話があった時刻は午前3時でした。少し、時間の感覚が違うようです。また、携帯した心電計で心筋梗塞だった2人のおばあさんの場合、その時点で救急車を呼んでも来るまでに時

間がかかるし、どちらも家のそばまで車で行けない所でしたので、おんぶして車の所まで行き、救急指定病院まで運びました。そのうちの1人は、病院に着いたとたん心停止になりましたが、すぐに蘇生でき、16年後に90歳で自宅で人生を全うされました。

先日、東京で全国の国保の医療関係者の研修会がありました。その中の懇親会を兼ねた「ナイトセッション」で、さだまさしの「風に立つライオン」の歌のように、各人が「私は〇〇に立つ〇〇になりたい」と自己紹介をする企画がありました。私は、「ディア・ドクター」のポスターを思い浮かべ、「田んぼに立つ鶴瓶になりたい」と言ってしまいました。しかし、同じ「ディア・ドクター」でも、私の場合は、今年から日本紅斑熱の研究のために「鹿」の血液を集めていますので、「Deer Doctor」かもしれませんが（「ディア・ドクター」のポスターに似せて、一緒に写っているのは山羊です）。

病院のまど

ハートフルコンサート

平成22年2月6日(土)に、「アースソングス」によるハートフルコンサートを開催しました。

「アースソングス」は、田辺・西牟婁の音楽愛好家で結成されたグループです。今回の演奏では、スコットランド民族楽器のバグパイプ、能管(能楽で使われる横笛)、チェロ・フルート・ピアノのアンサンブル、そしてスペインの芸能フラメンコと、興味深い音楽が聴けるということで、多くの方々が来場されました。

バグパイプの高く響く音の迫力、幽玄な世界を奏でる能管、美しい音色が調和したアンサンブル、そしてエキゾチックで華やかなフラメンコ、生演奏の魅力に観客一同酔いしれました。



第22回市民健康講座について

平成22年1月24日(日)に、市民健康講座を開催しました。今回は、「スッキリ! 過ごそう花粉症」と題しまして、当院耳鼻咽喉科医長安井紀代が講演しました。

山河が華やぎ心陽気になる春先も、スギ花粉症を患っている者には耐え難いものです。花粉症の悩みを抱えていらっしゃる方も多く多数の方々がお越しになられました。賢い花粉症対策が分かり、今年はいい春先を迎えられそうな気がしてきました。



診療科の診察日等の変更

診療体制の変更により、脳神経外科、神経内科の診察日・診察時間が下記のように変更となります。

脳神経外科 診察日 水曜日→木曜日 (3月1日より)
担当医 中北和夫→中村善也
神経内科 診察日 木曜日→金曜日 (4月1日より)
診察時間 8時30分～午前11時まで

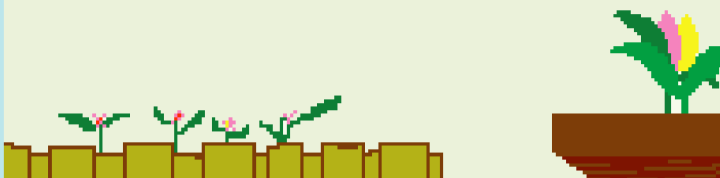
追記

脳神経外科の3月4日、3月18日の診察は都合により休診とさせていただきます。ご了承下さい。

編集後記

今年も早いもので、梅の花が咲いたと思っていたら桜の花の話題がチラホラと聞かれる季節になりました。春といえば・・・
あっ!今年も花粉の季節が!!
花粉症の皆さん、ティッシュ片手に頑張りましょう・・・

S記



第23回市民健康講座

年を取るにしたがって、「もの忘れがひどくなった」と感じる人が多いのでは? 高齢化と平均寿命の延びに伴って、我が国でも認知症患者数は年々増加し、今では85歳以上の高齢者の4人に1人は認知症患者だとされています。自分もしくは家族や身近な人がかかるかもしれないこの「認知症」という病気について勉強し、一緒に考えてみませんか。

日時 平成22年3月14日(日)
時間 午後2:00～3:00
会場 紀南病院 3階講堂
演題 認知症について ～病気の理解、家族にできること～
演者 糸川 秀彰(紀南こころの医療センター精神神経科部長)

基本理念

社会保険紀南病院

私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。

紀南こころの医療センター

やさしさをもって、信頼と満足の得られる医療を行います。

社会保険紀南病院

〒646-8588 和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>

Southern Cross
kinan hospital official information paper